

より良い未来をつくるための教育

(原文)

今岡 称 (18 歳)

大阪府

聖母被昇天学院中学校高等学校

「教育」という言葉には多くのとらえかたがあります。

日本で「教育」ときくと、「学力」を思い浮かべる人は多いでしょう。より高いレベルの中学、高校、大学へ進むための学力は、多くの日本人の関心事です。低学年から塾に通って難易度の高い問題を解くことは、より高収入の仕事に就くことが目標のように見えます。実際、教育水準の高さと親の年収は関係が深く、日本の貧困の連鎖には低学歴が継承されていると言われています。

また、「教育」にはしつけやマナーという意味もあります。社会の中で、人々が互いに気持ちよく生活していくためには法律やルールだけでは足りません。挨拶や配慮、倫理感のような共通の価値感が必要です。これは親から子へ伝えられ、社会生活の中で身につけていくものです。

そして、英語で「教育」を意味する「education」には、「持っている能力を高める」という意味があります。それぞれの個性を認め、本人の希望に沿って能力を大切に伸ばしていくという考え方は、日本では 90 年頃のゆとり教育のころに広まりました。ゆとり教育には賛否がありました。しかし、個性を認める考え方は、マイノリティが抱える問題に関心を持たせ、多様性の尊重に目を向けるきっかけになったと私は思います。

そして、人権問題、貧困、飢餓、紛争などに直面している国の人々にとっては、「教育」は生死を分けるほどの意味をもちます。生きる力を育てる教育は、短期では成果がわからないかもしれません。10 年、20 年先の国の未来よりも、今を生き延びることが大切だという考えがあることも理解できます。でも私は、教育は平和的に発展をもたらす最大の方法だと考えます。今、世界では教育の大切さが叫ばれています。マララ・ユスフザイさんは「教育は世界をかえる」と訴え多くの人々の支持を得ました。私も「教育は世界をかえる」考えますが、後発開発途上国や人権問題を抱える国々への教育だけで十分だとは思いません。それだけでは持続可能な社会を生み出すことはできないと思います。

後発開発途上国が目指すべきなのはどのような未来でしょうか。今の日本やアメリカなどのように経済的に豊かで学力の高い国になることでしょうか。文明開化の日本や戦後の日本がそうだったように、発展している国、経済的に強い国を目標にすることは自然なことです。でも、現在の先進国を目標にすることは正しい選択ではありません。先進国は学力という意味での教育や経済力はありますが、核、自然環境、貧困格差、少子高齢化、根深い人種差別、マイノリティへの無理解、自己中心的な社

会での振る舞いなど多くの問題を抱えています。

今、必要な教育は、後発開発途上国への教育だけではなく、先進国と呼ばれる国々に対しても必要です。これを両輪として進まなければ持続可能な社会にはなりません。現在の先進国のまま、後発開発途上国への教育支援を続けても、問題を抱える先進国が増えるだけではないでしょうか。

もしも、国や個人の利害をこえて一人一人が 100 年後の未来を意識することが真にできたらどんな社会になるのでしょうか。私が考える持続可能な社会のために必要な理想の「教育」は、自分のいない未来を大切に思う心を育てる教育です。自分が生きる現在と自分のいない未来を同じ重さで感じる心が大切だと私は思います。